

議案外質問(11月26日) 江上博之議員

「表現の自由」守る立場で全額支出を 「あいちトリエンナーレ」名古屋市負担金

江上博之議員は26日の市議会本会議で河村たかし市長に対し、国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」の市負担金(支払い済み約1億3700万円、未払い約3300万円)を全額支出するよう求めました。同負担金を巡り、河村市長は20日の本会議で「市の検証委員会を発足させて、取り扱いを慎重に検討する」と表明しています。

「金は出しても口は出さない」に徹すべき

江上議員は、同芸術祭の「表現の不自由展・その後」展の再開の際、河村市長が抗議行動したのは「表現の自由」を踏みにじる行為だと、厳しく批判。文化芸術活動の自主性の尊重を地方公共団体に求めている、文化芸術基本法の基本理念に触れ、「市がやるべきことは『表現の自由』をいかに守るかにある。憲法21条は『金は出しても口は出さない』に徹するよう求めている。市負担金は全額支出すべきだ」と迫りました。

これに対し河村市長は「(手続き上)一定の審査をする義務がある」と述べるにとどまりました。

行政権力の介入を受けない「第三者機関」に

江上議員はさらに、市が検討中の、文化芸術への助成のあり方を検討する専門会議「アーツカウンシル」についても質問。「『公益性』を理由に、行政権力が『表現の自由』に介入することがあってはならない。自由な議論を促進する機関にする必要がある」と力説しました。

観光文化局長は「指摘の点について、他都市の事例を参考に十分に検討していきたい」と答えました。

江上議員は再質問で、河村市長が同芸術祭の実行委員会会長代行であるにもかかわらず、運営会議に2年間一度も出席していない問題を取り上げ、「手続きを重視するというのなら、なぜ欠席したのか。責任が問われる」と批判しました。



地元にとって「害あって利益なし」 名古屋高速道路/黄金IC拡張計画

リニア開通を視野に、自動車を名古屋駅にアクセスしやすくするとして、市は黄金インター(中川区)に、西方面の出入り口を新設する計画です。これに伴い地元・百船町の道路を拡張し地域を分断する都市計画道路も立案。40軒以上の住民に立ち退きを求める方針です。

江上議員は「地元は過去の高速道路建設で150軒以上立ち退きを求められた経緯がある。一人暮らしの高齢者が多く、町内間の行き来も困難になる。地元にとって高速道路は、害はあっても利益はない」と指摘。

市の方針にも反する、時代逆行の計画

江上議員はさらに、「都市高速道路は、都心域の渋滞を防ぎ、都心域から通過交通を排除するのが目的だったはず。都心域である名古屋駅への自動車流入を促進する計画は方針転換であり、時代逆行だ。そのために地域に犠牲を強いるなど認められない」と批判しました。

その上で江上議員は「反対があれば、計画を見直すのか」「立ち退くのは嫌だ



が、転居後の生活はきちんと見てくれるのか」などの声にどう答えるのか質しました。

住宅都市局長は「移転対象者には、理解と納得を得られるよう、補償を含めた生活再建などの点について丁寧に説明し、きめ細やかに対応したい」と答弁しました。

「行政からの業務依頼が多すぎる」 区政協力委員から悲鳴

少子高齢化や町内会・自治会への未加入世帯の増加により、災害時対応など地域活動の担い手不足は深刻な状況です。区政協力委員を担う市民から「行政からの提出物の依頼や、広報物の配布が多すぎる。負担を減らしてほしい」と悲鳴が上がっています。

江上議員は「地域が自主的活動にもっと力を入れられるよう、負担を軽減すべきだ。公民館を活用して生涯学習などに取り組んでいる岡山市などを参考に、小学校区単位での生涯教育をすすめてはどうか」と提案しました。

「負担軽減に取り組みたい」(局長)

市民経済局長は「区政協力委員の業務負担の軽減に取り組むとともに、地域コミュニティ活性化支援に取り組む」と答弁。教育長は「大変重要で大きな課題。生涯学習の観点から、地域コミュニティの活性化につながるような活動を進めていきたい」と答えました。